



まちかどの元気印

日本共産党

市会議員

山田こうじです！

2026年1月25日
NO.363

事務所：西院上花田町36-3
電話：222-3728
携帯：090-3970-4701
山田こうじ共産党検索

京都市立病院の在り方検討中間報告

公的病院の機能強化を



**病院・診療所
倒産3年連続増**

東京商工リサーチの調査で、病院や診療所を運営する事業者の倒産が2025年に41件となり、3年連続で前年を上回りました。倒産のほかに休廃業・解散が25年度に436件あり、事業者の消滅件数は477件となりました。政府の医療費抑制政策の上、物価高騰などで深刻な事態なのに診療報酬など必要な手当てを行わなかった結果です。

経常赤字、95%が医業赤字という過去最悪の結果が報告されています。市立病院も令和6年決算は純損益で14・4億円の赤字です。自治体病院の赤字自体は異常事態ではなく、むしろ地域医療を政策的に維持している証です。赤字削減ありきではなく、自治体病院として役割を果たすよう求めました。

**救急救命
体制の強化を**

政策医療（救急救命）については、人員体制は救急救命科3名で、関係者のヒアリングでは、医師体制が脆弱で不応需も多く、「救急車の受け入れ台数は京都市内で3番目に多いものの、応需率が7割程度と低い」

「夜間は救急医が不在となり、当直医師一人に過大な負担がかかっているのが現状」との声もあり、診療体制の強化を求めました。

**コロナ禍の経験
生かした診療体制を**

コロナ禍で経験したことは病床が不足し、入院できず自宅や施設で救える命が救えなかった痛苦の経験を生かさねばなりません。感

染症について、関係者のヒアリングでも「歴史的経緯（かつて東洋一の感染症病棟があった）もあり、市立病院の強みです。今後中核的な役割を担い、強化していくべき」「感染症課の専門医が充実しており、新興感染症発生時の第一号患者を受け入れる等、地域の拠点となっている」との院内評価があります。

コロナの教訓は平時の体制に余裕が必要ということでした。このことを忘れたかのような非効率を口実に病床などの削減は見直すべきだと求めました。

**診療報酬引き上げ求め
市としても役割は大きい**

主要な要因は診療報酬改定の影響が指摘されています。今回の改定では、26・27年度の2年平均で3・09%アップが決まっております。

物価高と医療従事者の賃上げへの対応が柱となっています。しかし現場の実態では10%の引き上げが必要と求められています。

今回の引き上げでは不十分であり、さらなる引き上げを求める必要があります。京都市としても、直接支援が必要で、運営費負担

金・交付金も減少し現場の求めとは逆行しています。令和5年16・7億円が令和6年は14・5億円で減少しています。令和4年決算では18・7億円でした。本市の役割が後退しています。

**コンサル頼みでなく
京都市として実態つかめ**

今回の中間報告は、コンサルタント会社に4千万円を支払い、発注した調査分析でしたが、既存の統計資料などをもとに作成されたものです。

京都市自身が汗をかいながら実態をつかむ努力こそ必要だと指摘しました。

京北病院の時も、コンサルタント会社に依頼し、病院関係者や地域住民置き去りでした。

「京北地域の医療を考える会」が行ったアンケートは400通近く回答があり貴重な意見が寄せられています。

コンサルタント会社が病院関係者等のヒアリングを実施していますが、京都市が直接関係者へのヒアリングを実施し、実態をつかむことこそ意味があると指摘しました。

まいとおきに
山田こうじです！
NO・350



火曜日から金曜日の朝7時半から8時まで朝宣伝。2011年からかみね史朗さんと二人で15分ずつ訴えていましたが、2023年4月の選挙以来、後援会の方も一緒に立っていました。訴え一人です。今年に入り、新しい相棒ができました。山口咲子府政対策委員と一緒に訴えています。

一緒に立っていた後援会の方々も「宣伝の雰囲気がいっぱいに様変わりです」と大いに盛り上がっています。

連日厳しい寒さが続きますが、今年も頑張ります！